

【事業を始めたきっかけ】

先代がもともと食品メーカーで働いていた人で、全国を営業で回っていました。世の中にはいいものがいっぱいあるけれど、それが地域の道の駅ぐらいまでしか出ていなくて埋もれているから、これをどうにか引っ張り上げていきたいという想いがあったんです。そこから独立して基となる食品卸売業のモリシゲ物産を作りました。尚且つ、自社ブランドが欲しくて「これからは荳胡麻だ!」ということで、1999年に福島県阿武隈高原で農園を開墾し、荳胡麻の栽培を始めました。それから5～6年してから僕が入りました。

2011年の東日本大震災の原発事故で福島の農場が警戒区域になってしまい、埼玉県庁に行って事情を説明したら、秩父市を紹介してもらったので農場を移転しました。モリシゲ物産の本社は埼玉県さいたま市にあり、農場と製造工場は秩父市にあります。

【荳胡麻栽培への想い・こだわり】

荳胡麻農家は農薬を使わなくてもやっていけるのはいいことだけれど、こんなに小さい粒を何トンとか集めている世界で、手間暇かかりすぎていると思う。でも、その手間暇かけてやる人が少なくなってきたところに逆にチャンスは生まれていると思っています。地道に丁寧に、ほぼ手作業でやっているところがこだわりです。

農業に携わって20年経ちます。長くやっているからこそ、いろいろな話がきたり繋がりができたりしているし、長く続けているということが一番の強みですね。



モリシゲ物産 上葛正人社長



毎月第2水曜日に搾油!

【搾りたて荳胡麻油】

モリシゲ物産



●荳胡麻 ～種まきから収穫まで～
5月中旬 播種(種まき)
6月から約1か月ハウスで苗を育て畑に定植
10月 収穫
荳胡麻と同時に麦や野菜の栽培も行っています

ひろがる、ちちぶ

創刊号

2025年4月発行

私がお届けします!



地域おこし協力隊 ちちぶと納税担当 那賀

秩父市ふるさと納税 返礼品提供事業者さんにインタビュー 《ヒト・モノ・コト便利》

今後の展望

地域と一緒に盛り上げたいという気持ちが強くて、それにはまず農業でしっかり立てるようにしなきゃいけないと思っています。もともとやっている食品卸売業の売り上げに支えられている状況を改善したいです。

コロナ明け後、モリシゲ物産の軸となっていた取引先が百貨店も含め3社ぐらいが無くなってしまい、また新しいところが増えてきているけれど、当時を支えていただけの売り上げまではまだ難しく…。荳胡麻がメインで伸びてはいるけれど、他のもの(麦や野菜)の収益を上げて、それを軸にして次のステップに繋げていけるようにしたいですね。

思い出に残るエピソード

一番は土の変化ですね。福島のとときは良い土だったなあと思うけれど、秩父に来てからは土と向き合った分だけ反応してくれているのを感じます。秩父の土地はトンネル残土で作った場所で、山の奥だから雨が降るとドロドロで、乾くとカチカチになる粘土質の土壌でした。大きな石もごろごろ出てきて、耕起しても土の塊でしかない状態でした。石は相当取りましたが、未だにたくさん出てきます。

始めの頃は先が見えず悩んだこともあったけれど、落ち葉やモルトの搾りカスなどの有機物が畑に入っていたことで、3年目ぐらいのときに土がバラバラになって変わって、「土が変わった!」というのが見えた時に、頑張ろうって気持ちになりました。何年もやって畑が変わっていくのを感じてから農業が面白くなってきました。



ふるさと納税
おすすめの返礼品!



荳胡麻お試し3点セット



ちちぶ
荳胡麻油
100ml × 2本セット

人気商品!!

荳胡麻きなこ豆

国産大豆を荳胡麻パウダーとともに
包み込んだ人気の豆菓子!

★寺社仏閣のツヤ出しには
荳胡麻油が使われています。

★荳胡麻はシソ科の植物で
シソ(青紫蘇)とは仲間!

★縄文時代から日本で栽培されてきた
歴史があります。東北の方では、
食べると十年長生きできると言われ
「じゅうねん」と呼ばれています。

えこま
豆知識

なるほど~!



モリシゲ物産

秩父工場
〒369-1503
埼玉県秩父市下吉田7501

荳胡麻屋ファームブログ

秩父市にある
自社農園での
栽培状況などを
発信しています→



モリシゲ物産
公式HP →



秩父はどんな街?

可能性のある街! 遠くもなく近くもなく、距離感を含めて丁度いいし、何より歴史も深いです。育まれてきた世界を理解しながら、ここが大好きで新しく広がっていくんじゃないかな!



製作へのこだわり・木の魅力

自分が作るものはきちんとしたものではなくて、なんというか、個性的な形のあるものになるんです。木にはそれぞれ表情があるところが好きですね。温かみもありますし。絵をやっていたので、木目を活かしつつ、木で色や曲線を表現するというのがこだわりです。

木は好きな形に何でもなりますね。どんな気持ちで作るかがとても大事で、丸く切るときは“まあいい気持ち”で切っています。それは出来上がりにも表れます。

使っている木はすべて秩父の木です。スギやヒノキが一番多くて、あとはホノノキやクスノキもあります。特にスギはちょっと当たただけでもすぐ傷がついてしまうので、とにかく慎重に扱いますね。ホノノキやクスノキはやわらかいので、彫ったり形を作ったりするのはやりやすいです。

事業を始めたきっかけ

20年ぐらい前に都内から秩父に移住してきたのですが、その頃から趣味で色々作り始めて、流木で椅子を作ったり、草でかばんを作ったりしていました。それからお店に置いてみないかと声をかけられ置いてみたところ、意外と反応がよかったのでやってみようかなと思いました。

今から8年前、第三回秩父市ウッドスタート(誕生祝い品)で木のおもちゃのデザイン募集があり、「木守(きもり)のおうち」を出したら、最優秀賞を取ることができました。これをきっかけにきちんとやってみようと思い、事業を立ち上げました。

その後、イベントでの販売や木を使ったワークショップを頼まれることも増えましたね。東京ビッグサイトのハンドメイドジャパンフェスに出店したり、四ツ谷にあるおもちゃ美術館での木育イベントにも参加したりしました。

木工クラフト作家の
中村恵美子さんに
お話を伺いました！



木守のおうち

子どもに届ける
木のおもちゃを製作！

「絵」と「木」
が好きなので
『えとき工舎』という
名前をつけました！

木守のおうちは
ふるさと納税の返礼品
にもなっています！



えとき工舎 中村恵美子さん

えとき工舎



ワークショップで大人気！

新宿御苑で開催された木のおもちゃのイベントにワークショップで参加したとき、山野笛助(ヤマノピースケ)という木の枝やビーズを使った笛のネックレスを作りました。そのときびっくりするくらい長い行列ができたんです！初めて見る光景でした。ワークショップは大人気で一日中楽しめました。

子どもから大人まで、みんなピーピー笛を吹いて、すごい嬉しかったのを覚えています。見本で何本か飾っていたものを、それでいいからください！と言われるほど人気でした。

思い出に残る
エピソード



山野笛助
(ヤマノピースケ)

今後の展望！

絵が好きなので、レリーフみたいな壁画を木で作りたいと思っています！これは絶対やりたいですね。あと、今は秩父のカエデの(形をした)パズルを考えています。秩父にはいろいろな種類のカエデがありますね！



【編集後記】ひろがる、ちちぶ創刊号をお読みいただきありがとうございます。地域おこし協力隊が、秩父市のふるさと納税返礼品提供事業者さんをポップに楽しく紹介していくニューズレター企画！これから、二か月に一回ぐらいのペースで発行していく予定です。お楽しみに！(那賀)

ひろがる、ちちぶ
創刊号

秩父はどんな街？

スーパーとかも近くにあるけれど、ほんのちよつと入るとすぐ山や川があって、気軽に本当の自然の中に入って行けちゃう場所です。

なるほど秩父弁！

「今日はいいあんべえて」
→ よい具合、いい天気
「よいじゃあねえ」→ 大変な

中村さん「移住してきたばかりの頃、最初は
どういう意味が分からなかったです(笑)。」



えとき工舎
公式Instagram
@etokinoiroha



えとき工舎 Instagram



赤鬼と青鬼



招き猫



虹色へび



ブリ木タウン



おまごとセット

中村さんの 作品

主な作品をご紹介します！



開運
猫だるま



ハロウィン 黒猫